

人々にとってかけがえのない川も、時には猛威をふるい、私たちの生活を脅かしてきました。その川では、今、自然環境に配慮した川づくりが進められています。“治水と河川の自然環境の保全・復元”は、私たちの永遠のテーマです。

ターブロックIIは河川をしっかりと守り、  
覆土・植生により、自然環境の  
保全・復元に貢献します。

### ■特長

- ブロック相互の合端間で被覆土と地盤が連続しているため、水分が補給される等、植物の生育を助けます。
- ブロックの凸部は被覆土のすべり出しを抑制し、流速低減にも有効に作用します。
- ブロックは、適度な屈撓性を持ち地盤の変化に対応できます。
- ブロックは、大型で使用個数が1個/m<sup>2</sup>と少なく、また方向性がないので速やかな施工ができます。

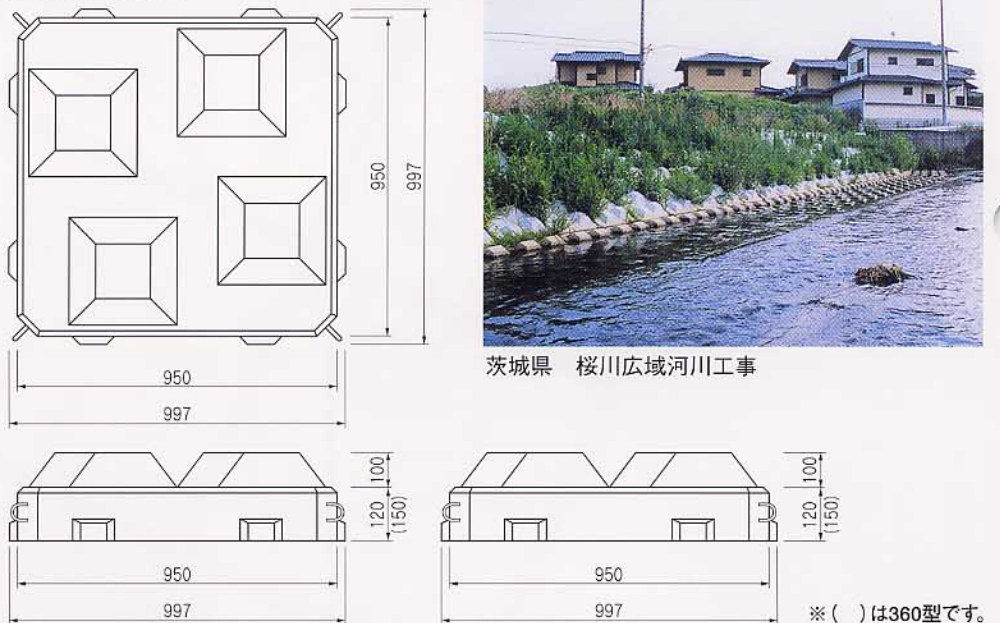
### ■用途

- 河川・ダム・遊水池などの護岸工

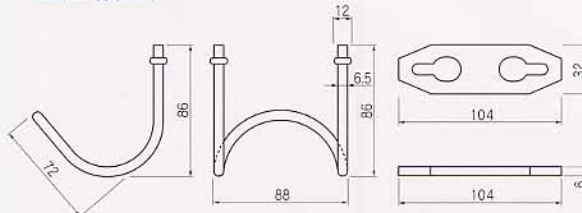
### ■規格諸元

型式	主要部寸法 L×B×H(mm)	体積 (m <sup>3</sup> )	参考質量	
			kg/個	kg/m <sup>2</sup>
300型	950×950×220	0.1328	305	305
360型	950×950×250	0.1597	367	367

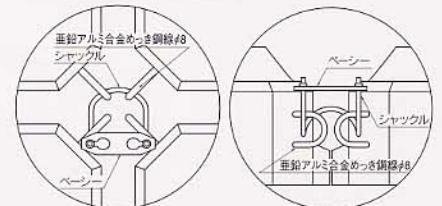
### ■規格寸法図



### ■連結金具



### ■連結詳細図



青森県 灰沼護岸工事



茨城県 桜川広域河川工事



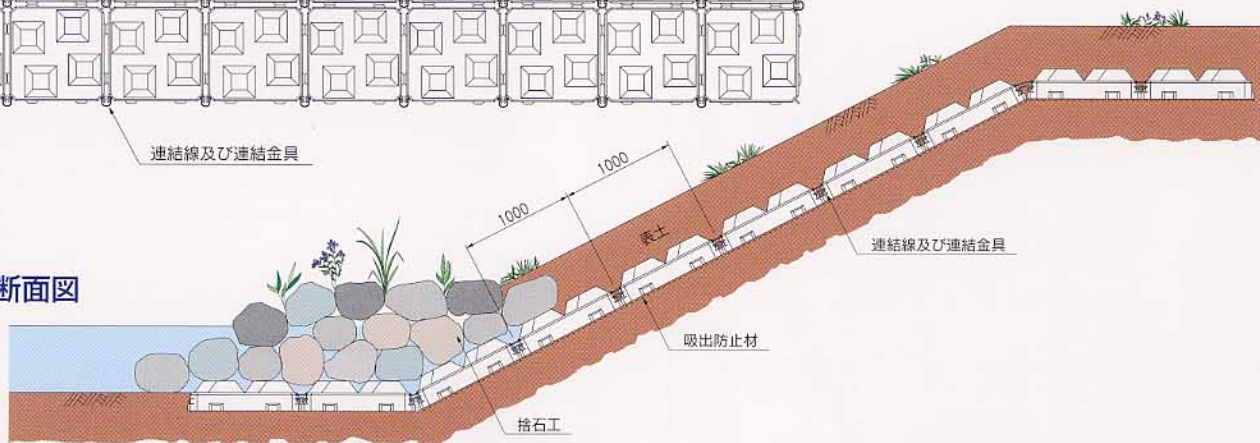
「護岸ブロックの水利特性試験法マニュアル」に基づき試験委託し、水利特性値証明書をいただいています。

■展開図

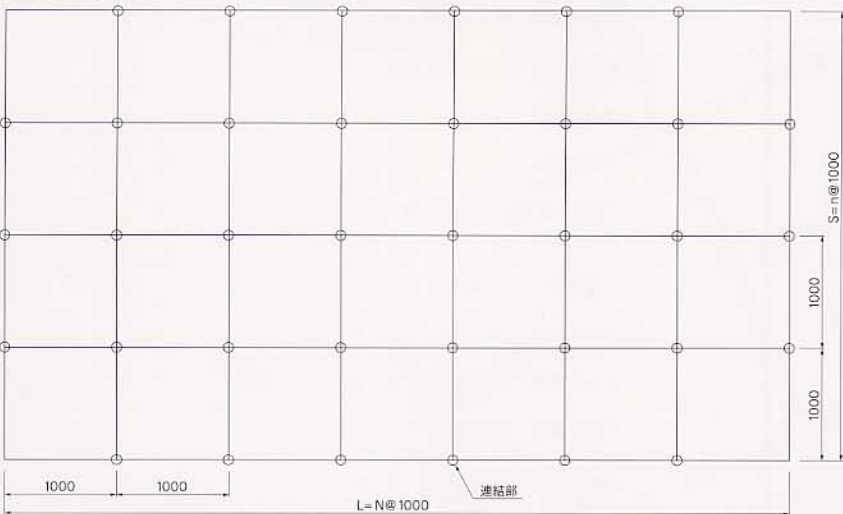


積土ブロック  
**ターブロックⅡ**

■施工断面図



■数量算出



■数量算出式

法覆長 S(m) 施工延長 L(m)の場合  
 所要ブロック数  $N = S \times L$   
 連結金具  $N = (S + 1)(L + 1) - 4$

【計算例】

法覆長 8(m) 施工延長 20(m)の場合  
 所要ブロック数  $N = 8 \times 20 = 160$ 個  
 連結金具  $N = (8 + 1)(20 + 1) - 4 = 185$ 組

N:列数  
 n:段数

■数量算出例

区分	単位	施工延長20.0m										
		段	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
段数	段	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
法覆長	m	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
施工面積	m <sup>2</sup>	60.0	80.0	100.0	120.0	140.0	160.0	180.0	200.0	220.0	240.0	
ブロック	個	60	80	100	120	140	160	180	200	220	240	
連結金具	組	80	101	122	143	164	185	206	227	248	269	